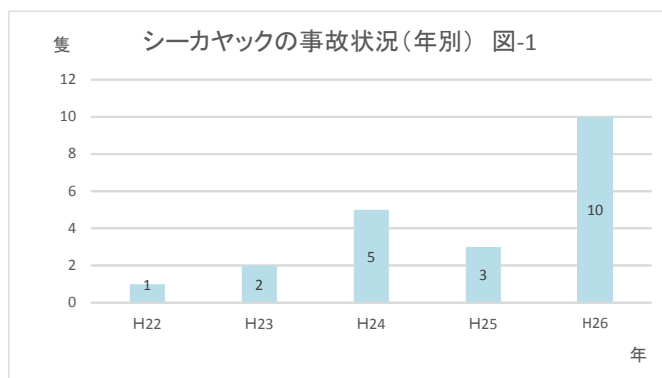


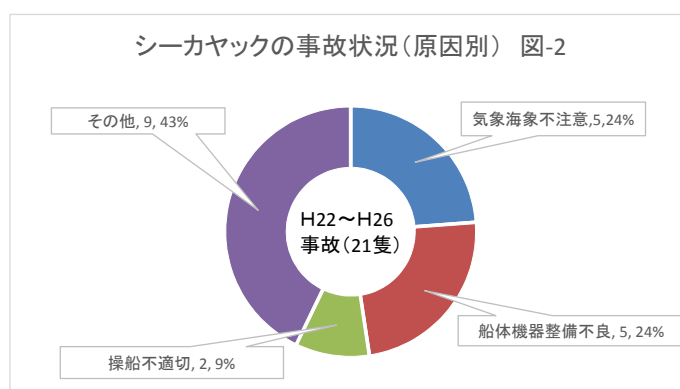
## 沖縄県周辺の海域におけるシーカヤックの事故

### 1 事故の状況

平成 22 年から平成 26 年の 5 年間に発生したシーカヤックの事故は、21 隻（4 隻／年）でした（図-1）。



原因別では、21 隻のうち気象海象不注意及び船体機器整備不良による事故が 5 隻（24%）、次いで操船不適切 2 隻（9%）でした（図-2）。



- 気象海象不注意  
気象海象不注意による事故のうち 3 隻（60%）が注意報発令中（波浪）の事故でした。
- 船体機器整備不良  
船体機器整備不良による事故のうち 4 隻（80%）が、船体の保管中の流出防止対策の不徹底による船体の漂流でした。
- 操船不適切及びその他  
操船不適切 2 隻とその他 9 隻のうち 7 隻（64%）が、乗船者の操船技能の不足により転覆後に船体の復原ができず、船体と一緒に漂流するものでした。

## 2 海難防止対策

### ○ 気象海象の把握

出港前には、気象海象を把握し荒天が予測される場合には、出港を取り止めて下さい。

また、出港後も気象海象の情報はこまめに確認し、急変が予測される場合は早期帰港に勤める。

海上保安庁がサービスを実施している沿岸域情報提供システム（MICS）では、注意報・警報のメールサービスを実施しています。活用下さい。

### ○ 操船技能の習得

一般向け講習に参加し、シーカヤック取扱いの習熟に努めて下さい。

### ○ 船体の適切な管理

船体が海上に流出する事故の防止のため、砂浜等に放置するのではなく、適切な格納や係留等を行って下さい。